



大阪錦繪新聞

第五十五號

銀水

歌九

板元石和

相刃江の嶋の浪父お本作兵三の娘おふ
 今歳十九にて所瀬村森田安次良友へ
 同村寅が縁約にて嫁入奉一翌日
 親類巡り縁約の家に行き寅の
 女房をめで挨拶せんとして思ひ
 ブウと大きき放屁と浴せしがおめ
 もだすつて君まがよき小こまハク物め
 のぢでか何とものおま産産とらうく
 あざうり笑ひし嫁顔と真赤はて
 貶場へ宅嫌が親類もさうしく
 入お大さるが残念との書れきこて死せしが安五良
 ハ大いお驚きかとの死がいの前と切書れきこと小
 寅次が宅持行かめが見せしお見えて驚きこし
 過言より花嫁と殺し事言託しと自殺せお安次良
 寅次お言託ふしと身と投げしを放屁一ツで三人が
 命と落すと六落一所のい尻で有と諸新聞紙よ許あり

行たのハ尻山筒おきこ一發で

三人こらをとんとんご尻の玉

